

2017年に入って間もなく1ヶ月になるが、今月も新たな仲間を各地で迎え入れている。1月4日にJR北労組、同6日にJREユニオンがそれぞれ組織拡大を果たすなど、今年も加入の勢いは続いていきそうだ。

JR北労組、JREユニオンで組織拡大 今年もJR連合への加入の勢い続く！

分会同士の切磋琢磨、地道な取り組みが成果につながる

JR北労組では、1月4日に自動車支部の琴似分会で新しい仲間が加わった。JR北労組自動車支部には、昨年の定期大会以降、既に5人目の加入となる。日常の世話役活動や学習会での若手育成に取り組むなど、組織の活性化に努めた結果、各分会が切磋琢磨して組織拡大に取り組むという相乗効果を生んでいる。

JREユニオンでは、1月6日に横浜地本で未加入からの加入があった。昨年12月の仙台地本での組織拡大に続いて、地道な取り組みの成果である。JREユニオンは「お客様、国民の皆様から信頼され愛されるJR東日本、そして社員の皆さんから頼られる企業内労働組合を創造していく」と抱負を述べている。

JR連合に集う99単組81,000人は、今回加入した組合員を心から歓迎するとともに、更なる加入につながるよう支援の取り組みを強化していく。

東労組と会社の「労使共同宣言」は砂上の楼閣！？

JR連合は、1月6日、都内で2017年賀詞交歓会を開催した。連合・交運労協をはじめとする労働団体、政党、JR連合国会議員懇談会及び議員フォーラム、友誼団体、加盟単組等から200人に出席いただいて盛大に催された。

主催者を代表して松岡裕次会長は、今年取り組むべき主要課題について挨拶し、とりわけ民主化闘争については、「1999年の賀詞交歓会で当時の葛野会長が民主化に取り組むことを高らかに宣言した。以来、18年で一定の成果は出たものの、まだまだ道半ばである」として、悲願であるJR労働界の民主化にむけて、民主化当該3単組とJR連合・支援単組が力を合わせて取り組んでいく決意を示した。

一方、JR総連に加盟する最大単組である東労組は、スト権確立や36協定締結を巡って会社との対立がさらに深まっている模様である。この間の東労組と会社の蜜月関係の源泉であった「労使共同宣言」は、もはや砂上の楼閣になったと言えそうだ。

JR連合結成25年の今こそ、民主化完遂を！